

今年度、職員間の人事交流を深めようと交流保育を実施しました。職員から幼児と乳児の保育が分断されているという声が上がったのがきっかけです。例えば4歳児と1歳児と一緒に保育するにはどうしたらよいか双方の先生が集まって保育案を立てることで理解が進むと考えたからです。いままで乳児と幼児の先生が話し合う機会は多くはありませんでしたが意見交換することでお互いを知るようにもなったようです。交流保育は始めたばかりですが一定の効果とともに保育の質を高めることにも繋がります。今後も続けていきたいです。年齢の大きい子が小さい子にやさしく接したり、手伝ったりしているのを見て、園目標であるやさしいところがんばる力を育てることにも通じています。本来、子どもは年齢が上の子から遊び方を見て教わったり模倣したりしながら学んでいます。午後の預かり保育は異年齢集団となりますので人的、物的両面の環境構成を見直していく必要を感じます。(園長)

4月の職員会議において、若葉幼稚園職員の心構え24項目の提示がありました。当たり前だと思われることも、それぞれの解釈によりずれが生じることもあります。全職員で、共通意識を持ってスタートすることができました。そして、私は以下の2つの項目を意識して保育しました。

11、自身の経験を生かし同僚に優しく指導し、後輩を育てる
後輩の保育者に「寄り添い・任せ・見守る」ことを心がけ、得意な事を生かしてもらえるように考えを聞いてからアドバイスするようにしました。

12、子どもに対して常に愛情をもって接する
子どもが安心して過ごせるように穏やかな気持ちで関わるようにしました。ひとりひとりの小さな変化にも気付くように配慮し、その姿を職員間でも共有するようにしています。

先日、いたずらっ子M君の友だちに対する優しい発言がとてもうれしく、それを褒めた後にM君もとても誇らしげでした。子どもの思いを認めて本気で接する事の大切さを改めて感じた出来事でした。

また、11月の職員会議で倉橋惣三の書籍の中から抜粋された「自らを」と「子どもが帰った後」の読み合わせをしました。自らを向上させるべく、私たち自身が学習し自己更新を図ること、そして保育の振り返りである自己評価の重要性を再認識しました。

これからも保育者自身が仕事に誇りを持ち、職員全員が輝けるような職場の雰囲気作りを心掛けていきたいと思えます。(副園長)

昨年度に比べ、コロナウイルスが落ち着き少しずつ以前の園生活・園行事がもどってきました。久しぶりの親子遠足では、保護者の方から『楽しかった』『お友だちと一緒に親子で過ごせて良かった』など言っていただき、実施できて良かったです。プレイデーや発表会でも多くの方に子どもたちの頑張る姿を見てもらうことができ、子どもたちのやりがいや自信にも繋がったかなと思います。これらの園行事を楽しむために職員間で話し合い、進めていくのですが、経験の違いが共通理解をするまでに時間を要したこともありました。

初めて持ち上がり、年中児の担任になりました。“少しずつ自立を目指す”“人の話をしっかり聞く”“クラスのみんなで協力し合って行事を楽しむ”“諦めず頑張って取り組む”を今年度のクラス目標にたてました。年少の時に比べ、お友だちや年下の子に対して優しさや思いやりの気持ちを持って関われるようになったり、製作に集中できる時間が増えたり、子どもたちがこの1年間で大きく成長したなと思います。しかし、まだまだ揉めることも多く、言動が気になることがあります。子どもたちで話し合ったり、解決しようとする姿が見られるので、見守りつつ気になるときは援助しています。気持ちを伝えあい、足りない時には代弁してお互いの気持ちを理解しあえたらと思います。保育の中で“主体性”を意識していますが、今年度は取り組みが少なかったかなと感じています。子どもたちと一緒に考えていくことで、達成感や喜びを感じることができるので来年度は反省を活かしていけたらと思います。

今年度も残りあと2ヶ月となりました。思い出を作りながら、子どもたちと楽しんで毎日を過ごしていきたいと思います。年長児への進級までに、“話を聞く”“言葉遣いに気をつける”という点をもう少し促していけたらいいなと思います。

来年度は主体的保育に積極的に取り組み、周りの保育者と連携し他クラスとの交流の機会を多く作っていったらいいなと思います。また、今後も子どもたちの前に立つ保育者として言動や振る舞いに気をつけ過ごしていきたいです。(主任)

今年度は最高学年という大切な1年を任せていただききました。不安な気持ちもありましたが、3年間一緒に過ごせることがとても嬉しく、楽しい時間を過ごしたいと思い始まった1年でした。

1年後の就学に向けて基本的な生活習慣だけでなく、人のお話をしっかり聞くこと・自分の気持ちを伝えることができるようになってほしいと思い、常に関わるよう意識してきました。またお友達に対して思いやりの気持ちを持ってほしいと考え、クラスで温かい行動や言動を見つけた時に子ども達と共有するようにしていました。新しいクラスになったばかりの頃は、お友達に対して少し強引に

気持ちを押し付けてしまうことが多く喧嘩になってしまうことが多々ありました。年長児なので喧嘩になってしまった理由やどうしたらよかったのかを子ども達に考えさせるよう促し、納得して解決できるように声を掛けてきました。徐々に気持ちを押し付けるのではなく、伝える・話し合うことができるようになってきたと成長を感じ、嬉しくなりました。

行事や製作の時には子ども達に問いかけ、意見を出し合う機会を作り主体性を取り入れてきました。年長児は今までの経験から次々に意見を出してくれ、みんなで何かを作り上げる楽しさを味わうことが出来たと思います。

また、保育の進め方やクラスのまとめ方で悩んだときに、周りの先生方に相談させてもらいアドバイスをいただきました。自分だけでは思いつかないようなアドバイスをいただき、学ぶことばかりでした。

子ども達と話していると思わず笑ってしまうことがよくあります。日々の保育に悩み、大変だなと思うこともありますが、子どもの近くで成長を見られたり、子どもと一緒に夢中になって取り組んだりと本当に素敵で楽しいお仕事だなと思います。卒園まであと少し。一日一日を大切に、子ども達の笑顔を沢山見られるよう過ごしていきたいと思います。(A)

今年度は、年少児の担任をさせていただきました。昨年度に引き続き、今年度も「一人ひとりの子と関わり、信頼関係を築く」ことを目標にしてきました。入園当初は、お母さんと離れるのが悲しくて泣いてしまったり、新しい環境や初めて会う友達に戸惑う姿がみられました。そこで、毎日コミュニケーションをとり、遊びや生活を通して関わりを持つように心がけてきました。徐々にですが、「おはよう！」と元気に登園し、自らお友達に「遊ぼう」と声を掛け笑顔がみられるようになりました。幼稚園が楽しい場所・安心できる場所になったようで嬉しく思います。

年少児の担任として、“子どもたちへの対応はこれでいいのか”、“どこまで手伝ってあげるべきなのか”、自分の保育を毎日反省し悩んでいました。時には注意するだけでなく、もう少し分かりやすい声掛けができたのではないかと思うこともありました。先輩先生方に相談に乗っていただいたり、“次はこういう声かけをしよう！”と1日の保育を振り返ってきました。試行錯誤をしながらの保育でしたが、「先生、一緒に遊ぼうよ！」「先生、お手紙書いてきたよ！」「先生大好き！」と言ってくれて少しでも子どもたちにとって信頼できる先生に近づけたのではないかと思います。

4月の頃に比べると色々できることも増えて、「自分でやってみよう！」という気持ちも出てきたり、お友だちを“思いやる”気持ちが出てきて心も体も頼もしくなりました。成長を傍で感じることができ、改めて素敵な仕事であ

り、携わることができて良かったなと感じました。(N)

今年度は、初めて幼児フリーを経験させていただきました。乳児クラスとは、活動内容や1日の流れが異なるため、最初は慣れるのに精一杯でしたが、「子ども一人ひとりと向き合い、信頼関係を気づいていく」「子ども目線になって考える」を目標にして関わってきました。お母さんと離れるのが嫌で泣いて登園した子ども今では元気に登園するようになりました。

フリーとして主の先生方のサポートをどのようにしていくのか日々考えさせられる毎日でした。気づいたら自分から積極的に動くこと、幼児のことはわからないことがたくさんあったのでわからないことは上の先生にどんどん聞いていくことを心掛けて毎日過ごしてきました。先生方も優しくわかりやすく教えてくださったのでとても助かりました。先生方の動きや言葉がけをみて勉強させていただいたので、今後1人で幼児の担任を持った時の参考にさせていただきたいです。

子どもたちも幼児と乳児は異なり、幼児になってくると言葉もたくさん話せるようになり、子ども同士で関わることも多くなります。そのため喧嘩も多くなります。自分の思いを上手く言葉で伝えることが出来ず強くいってしまったり、時には手が出てしまうこともありました。子どもたちには、いけないことはいけないとはっきり伝え、「なんでダメだったと思う?」「〇〇ちゃんがされたらどういう気持ちになるかな?」と子どもたちに問いかけるような声掛けをしていきました。最初は意地を張っている子どもも少しずつ素直になってお友達の気持ちを考えられるようになった姿をみて成長を感じました。今後も子ども目線になった言葉がけをしていけるようにしたいです。(M)

今年度、初めて幼児クラスを経験させていただきました。乳児クラスと幼児クラスでは1日の活動内容や流れが異となるので、最初は慣れるのに精一杯でした。クラスの半数の子が持ち上がりと言うこともあり、すぐに子ども達も担任に慣れてくれました。幼児の生活にわからない事ばかりで不安な1年でしたが、クラスの子が「先生大好き!」「会いたかったよ」「先生がいい」と言ってくれる姿に毎回元気をもらっていました。子ども達には、「優しい子」に育ってほしいと思い、毎日のように「困っている子がいたら助けてあげようね」や「お友達に優しくしようね」「みんなでやろうね」と声を掛けてきました。「相手がどんな気持ちになるのか」自分のことに例えながら「自分が言われたらどう思うのか?」などわかりやすく伝えることを意識しました。1学期では、お友達に強く言ってしまうたり、手が出てしまったりと喧嘩をすることもありました。2学期が過ぎた頃からお友達との仲が深まり、子ども達の心の成長というのもあり喧嘩が減

ってきました。お友達への言葉も優しくなり、「ごめんね」「いいよ」「ありがとう」など言葉が増えてきたと思います。時にはぶつかることもあります。お互いにこれが嫌だったと言えるようになったり、そのやり取りを見ていた子が玩具を譲ってくれたりなど、優しい姿が多く見られ嬉しく思います。人との関わりの中で、相手の感情を知り理解することで心の成長にもつながるのかなと改めて思いました。この一年で子ども達が言った言葉で、一番印象に残っていることがあります。それは、「みんなが1番だね」という言葉です。子ども達同士で誰が一番で争って喧嘩にならないように「みんなが1番」というこの言葉をクラスの子が言うと誰一人否定する子がいませんでした。誰が1番を決めるのではなく、みんなが1番というあり方も素敵だなと思いました。この経験を活かしてより子どもへの関わり1つ1つを大切にしていきたいと思います。

今年度は初めてのことが多く担任を続けていけるか不安でしたが、至らぬことばかりでしたが保護者の方には暖かく見守ってくださったり、先輩先生にはたくさん相談にのっていただきました。来年度は、今年度の失敗を反省し自分も成長できるように頑張っていきたいと思います。(M)

今年度も1歳児クラスを担当しました。1歳児は赤ちゃんから子どもへと目まぐるしいスピードで成長する時期です。また、1歳になったばかりの子、もうすぐ2歳になる子と、同じ1歳でも月齢によって発達の度合いに大きな差があります。そのため、それぞれの子どもの発達をよく見て、段階に合わせた保育をするよう心がけました。食事やトイレ、衣類の着脱などの簡単な身の回りの事も、すべて保育者がやってしまうのではなく、コツを伝えながらさりげなく補助をしたり、自分でできた満足感や達成感、自信につながれるよう、たくさん褒めたり認めたりするようにしました。運動機能・言語機能が発達したり、自我の芽生えでいろいろな事に挑戦したい時期でもあります。散歩に出かけて広い場所で思いきり体を動かせるようにしたり、季節の自然に触れながら探索活動が出来るよう計画を立て、環境設定を整えるようにしました。イヤイヤ期真っ只中で、対応が難しい年齢でもありますが、クラスの先生たちと協力し合い、子どもの気持ちを切り替えられるような声かけをしながら、子ども達が楽しく安心して生活できるクラスを目指しました。保育で悩んだ時は私自身も後輩の先生たちからたくさん事を学ばせてもらいました。「報連相」を大切に、協力し合いながらチーム保育をするよう心がけていきたいです。(主任)

今年度は、幼児から乳児となり、最初は発達の違いに戸惑いや接し方に不安がありました。今までに受け持ったことの無い学年で、どう接したらいいのか、泣いている子、何に対しても嫌々する子に何と声を掛けたらいいのかとても悩み

ました。同じクラスの先生方の対応を見たり、聞いたり、自分でも試行錯誤したりと子ども達に合った対応について日々考えながら保育してきました。日に日に信頼関係が築けていくうちに何で泣いているのか、きつこの子はこうしてほしいんだろうな、こう言いたいんだろうなと少しずつ分かるようになりました。言葉がまだはっきり言えなくても意思疎通ができている気がして嬉しかったです。初めて自分の名前を呼んで駆け寄ってきてくれた時のことは忘れられません。

語彙力や、1人でできる事が増えた時、自分の気持ちを言葉で伝えることができた時などたくさん大きな成長を見守ることができ、一緒に喜ぶことができた一年でした。

保護者の方々とも連絡帳や登降園の際にコミュニケーションを取るように心掛けました。毎日の子どもの様子を話したり、可愛かったエピソードなど、何気ないことも伝えました。次第に保護者の方からもお家での様子や先生の話もしていましたよと言ってもらえ、様子を知れるのが嬉しかったです。

私自身周りに頼ることが苦手でしたが、今年度は複数担任となり、「手伝うから言ってね!」「みんなでやりましょう!」と同じクラスの先生から声を掛けてもらうこともあって少しずつ周りに頼ることができるようになったと思います。一人で抱え込まず、みんなで協力・分担して保育していく、みんなで子ども達の成長を見守っていくということを改めて実感しました。(I)

今年度は2度目となる2歳児クラスの担任をさせていただきました。

子どもと共に頑張ってきたことは、オムツからパンツへの移行です。トイレトレーニングを本格的に開始する2歳児クラス。最初はお漏らしが当たり前です。漏れてしまったり、保育者に伝えることができなかつたとしても、怒ってしまうのではなく、「大丈夫だよ。」「次、もう一回頑張ってみよう。」と前向きな言葉をかけるようにしてきました。トイレを嫌がる子はなく、個人差に合わせて進めていくことができました。

反省点としては、時間を気にしすぎてしまったことです。上着や靴、帽子など身の回りの着脱では、ゆっくり丁寧に教えるべきところで、全てやってあげてしまった時がありました。又、給食時、自分で食べるということも重要なことなのですが、口元へ運んでしまったことが多かったと思います。その都度、適切な言葉がけと援助・対応を考えて子ども達と過ごしていきたいです。

去年は、幼児クラスだったこともあり、ほとんど関わりのなかつた子ばかりでした。信頼関係が最も大切である乳児。最初は、泣かれ、拒否をされてしまったり、コミュニケーションをとることに時間がかかりました。2学期まで、毎日のように泣いて登園する子、情緒不安定だった子もいました。その中で、悲しい時

には励まし寄り添うこと、
会話を楽しみ、一緒に思いっきり遊び、できたことは褒めていくことを大事にしました。
子どもが日々安心して生活できるよう保育者との信頼関係を築いていきたいと思いをします。(M)

今年は0歳児の担任をさせていただきました。幼児期の土台となる大切な時期を任せていただくということで、私の中で大切にしていた3つのことがあります。

1つ目は、一対一でのコミュニケーションを欠かさないということです。保育室には一歳児もいて、常に一対一の関りは難しいので、あえて意識して一日のなかで少しでも自分のクラスの子と一対一で関わることで、日々急速に成長していく子ども達の変化に気づき、愛着関係をより築いていきたいと思いました。

2つ目は、家庭との連携をしっかりと行い、一貫した保育を行うこと。家庭で大切にしていることを、園でも取り入れ保護者と一緒に保育をしていきたいと思いました。結果、保護者と良好な関係を作っていくことができ、連絡帳や送り迎えの時間に悩み相談を聞き一緒に解決していくことができました。

3つ目は、たくさん話しかけ、絵本や手遊びを通して発語を促すことです。子ども達は日々両親や保育者、園内のお兄さんお姉さんや兄弟などの会話を聞いています。私は乳児期にたくさんの言葉のシャワーを浴びることで、言葉の理解・発語につながると思っています。なので、園では好きな絵本を子どもが満足するまで何度も読んで、子どもの興味関心には時間が許す限り納得のいくまで答え、関わるようにしました。

赤ちゃんは全身で色々な事を感じとり学ぶので、ふれあい遊びを通して全身に訴えかけたり、ハグや抱っこをして愛情を伝え、安心して園生活がおくれるようにしました。

後期になり自我が芽生えてくると、今まで出来ていたことがスムーズにできなくなってきました。なるべく子どもたちの気持ちを受け止め、明るい声かけで気持ちよく活動に参加できるように促し、個々で声かけの仕方を変えるなどして工夫しました。

0歳児は一歳児クラスと一緒に保育をしていくので、報告・連絡・相談をまめにするのはもちろんのこと、子どもの話など0歳児の子ども達のこともしっかりと

もらえるように、少しの変化を伝え、全員で成長を喜び協力して保育をしました。(S)

若葉に来たことで、この園の考え方、保育の進め方などをまず覚えていくことが大事だと思い、聞くことをためらわず、新任のつもりで周りの保育者の話を聞き、協力していくことを心掛けた一年だった。また、二歳児を受け持つことが久しぶりだったので、自分のこれまでの経験と保育雑誌等を照らし合わせながら、保育を進めていった。その際は、担任同士で話し合いを重ねながら、どうすることが子どもにとって一番よいか考えていくこともできた。

二歳児にしては、行事に関する作り物が多いように感じられ、準備の時間に追われることが多かったのもう少し先を読み早めの企画、準備を心掛けたと思った。

若い先生と組むことで、新しい手遊びや歌などを知ることが出来たのはよかった。しかし、昔から歌われている歌がどんどん減ってきていることも感じ、伝えていく大切さも実感した。

散歩に出る機会が多く持てたことはよかった。子ども達は園外での色々な刺激を受けて五感で自然や人的環境を感じ、様々な成長が見られた。ただ、空いている園庭の活用をもう少し工夫出来れば良かった。出来ることは限られるが、固定遊具だけでなく二歳児に合った運動器具などを用いてもよかったのかなと思った。

幼児さんとの交流は、意見を取り入れて頂き、クラス単位での交流ではあったが保育者同士の交流にもなり、お互いに少しずつ理解が深まったように感じる。本来は、自然な流れで園庭での交流を目指したかったが、何しろ活動の時間が全く違い交流が難しいので、クラス単位でも出来たことはよかった。特に二歳児は見て学ぶことが多いので、幼児さんとの関わりは大切にしていきたいと思った。

(Y)

